

在校生の声



看護教育学領域
看護教育学分野
千田 明日香さん

私は病棟看護師として働きながら、病棟看護師へより効果的な教育が提供できないかとの思いがあったことや、研究をより深く行いたいと考え大学院に入学しました。大学院では経験の異なる仲間や先生方と看護や教育、研究について語りあう中で、学ぶことの楽しさ、自分の考えを伝えることの難しさを感じながら日々の授業や研究活動に励んでいます。

卒業後も研究を続け看護継続教育の質の向上に貢献していければと考えています。仕事と学業の両立は決して楽なものではありませんが、仲間と共に学びあう経験と課題をやり遂げる達成感はとても貴重なものになると思います。

修了生の声



高度実践看護学領域
精神看護学分野修了
村井 理恵子さん

精神看護専門看護師を志し、北陸地域で唯一同教育課程のある本研究科に入学しました。入学にあたり前職を退職しましたが、奨学金等の支援制度が充実していたため、安心して学業に専念することができました。個別の広い机・パソコン・ロッカー等が利用できる快適な院生室で、同期の仲間たちと語り、励まし合いながら実習や研究に臨み、一日一日が濃密でありながら、あっという間の2年間でした。

現在は、本学病院精神科病棟に勤めながら、専門看護師認定審査受験の準備を進めており、資格取得後はリエゾンナースとして活動の場を広げていきたいと思っています。

学習環境は十分に整っている大学院です。必要なのは学ぶ意欲だけだと思います。



地域生活支援看護学領域
地域健康支援看護学修了
米田 一香さん

誰もが自分らしく輝き、安寧に暮らし続けられる社会の実現に向け、看護師の目線から地域づくりの一翼を担いたいと、生まれ育った内灘町で議員への立候補を決めた際に、専門職として地域特性や住民ニーズを的確に把握し、根拠に基づいた効果的な看護実践能力や政策立案能力を身につけたいと思い本学の受験を決意しました。在学中は仕事との両立が本当に大変でしたが、振り返るとあっという間の充実した2年間でした。

健康づくりは個人の心がけだけではなく、個人を取り巻く環境が大きな影響を及ぼします。さまざまなライフステージの個人、家族、集団の健康課題の解決と健康増進の支援に向け、地域に暮らす人々の声に真摯に耳を傾けながら、地域の実情に即した社会環境整備に取り組みたいと考えています。

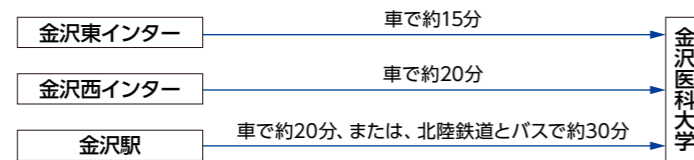
金沢医科大学 大学院看護学研究科(修士課程)

平成30年度 学生募集

生命への畏敬
Reverentia Vitae

Kanazawa Medical University Graduate School of Nursing

交通アクセス



問い合わせ
募集要項請求先

金沢医科大学看護学部事務課 (大学院看護学研究科担当)
〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1
TEL(076)286-2211(内線7733) E-mail kangoin@kanazawa-med.ac.jp
《対応時間》平日 8:45~17:00 土曜 8:45~12:00

金沢医科大学看護学部事務課 (大学院看護学研究科担当)
TEL(076)286-2211(内線7733) E-mail kangoin@kanazawa-med.ac.jp
http://www.kanazawa-med.ac.jp/graduate_nurse/top.html



保健・医療・福祉の発展と地域医療・看護の進歩に寄与することのできる 高度看護専門職者及び教育者の育成



看護学研究科長 森河 裕子

看護を学ばば学ぶほどに、看護職者として働けば働くほどに、課題や疑問は増え、より高度な知識や技術を得たいと考えるようになるのではないのでしょうか。しかし、医療・看護の知識や技術の進歩は目覚ましく、看護の対象である人や地域社会のニーズも多様で移り変わります。ですから、常に向上心をもって学び続けなければなりません。

より良い看護を実現していくためには、課題を科学的に探究し活用する能力、看護実践やケア環境の質の改善に取り組む能力、リーダーシップを発揮する能力、多職種間の協働を推進する能力などが必要になるでしょう。こうした能力は生涯にわたって育てていくべきものですが、できるだけ早い時期に正しい姿勢とスキルを身につけておくことが大切と考えます。それを可能にするのが大学院修士課程での学びです。大学院への進学は精神的にも物理的にもハードルが高いと感じるかもしれません。しかし、長い看護職者としての人生の数年をご自身に投資することは、多くの利を生むはずで。

本学看護学研究科の特徴は、「高齢化・過疎化地域における高度実践看護職者」、「特定分野（精神看護、クリティカル看護）における高度実践看護職者」、「優れた看護職者を育てることのできる看護教育者」の育成を目指しているところにあります。

皆さんが当大学院での学びを志してくださることを期待しています。

看護学研究科の教育理念

保健・医療・福祉の発展と地域医療・看護の進歩に寄与する高度で専門的な知識と能力を有する
高度看護専門職者及び教育者の育成

アドミッションポリシー

本研究科は、看護の質の向上及び看護学の学際的発展に寄与できる高度看護専門職者、看護教育者・研究者を育成することを目指しています。このような観点から、以下のような人材を求めています。

- 1 看護職として基礎的な必要な知識・技術、看護実践能力を有している人
- 2 医療技術の高度・専門化、社会情勢の変化・ニーズに応える地域医療・看護の提供に貢献する意志のある人
- 3 地域や住民の特性を生かした看護実践の質向上に意欲のある人
- 4 教育現場や医療・看護現場における課題を学術研究として行うことで看護学の学際的発展に貢献する意志がある人
- 5 看護教育者として看護専門職者の育成に貢献する意志がある人

看護学研究科専攻領域・分野：地域医療のニーズにあった専攻分野を設置

| 領域 | 分野 | 育成する人材像 |
|-------------|--|--------------------------|
| 看護教育学領域 | 看護教育学分野 | 看護教育者 |
| 地域生活支援看護学領域 | 地域生活支援看護学分野 ・地域健康支援看護学 ・生活支援看護学 ・高齢者支援看護学 ・創傷・スキンケア看護学 ・精神保健支援看護学 | 高齢・過疎化地域における 高度看護専門職者 |
| 高度実践看護学領域 | 精神看護学分野 | 特定分野における高度看護 専門職者 |
| | クリティカルケア看護学分野 | |

各専門領域の紹介

看護教育学領域

看護教育学領域では、学士課程における看護教育者として、高度化・多様化する医療の動向、社会の変化を見据え、体系的かつ実践的な看護教育が構築できる「教育力」、「看護実践力」を修得するとともに、看護教育の質向上と発展に貢献できる「研究マインド」を兼ね備えた看護教育者の育成を主なねらいとしています。

看護教育領域には、看護教育制度、看護教育課程、看護教育内容と方法、看護教育評価などの看護教育学の理論・知識を修得するために必要な科目と講義・演習や臨地実習指導などで求められる教育実践力の修得に必要な演習科目を配置しています。

地域生活支援看護学領域

地域生活支援看護学領域では、高齢・過疎化地域において、疾病や障害を抱える高齢者をはじめとする地域住民ができる限り住み慣れた地域で生活できることを目指した地域医療・看護を提供できる高度看護専門職者の育成を主なねらいとしています。

地域生活支援看護学領域には、少子高齢化・過疎化が進む地域の健康課題と地域特性を的確に分析・評価し、他職種や地域住民と協働し、地域住民の生活に根ざした医療・看護を提供できる能力修得に必要な地域健康支援看護学、生活支援看護学、高齢者支援看護学、創傷・スキンケア看護学、精神保健支援看護学などの科目を配置しています。

高度実践看護学領域

高度実践看護学領域では、高度な専門的知識と能力をもって、特定分野における高度な専門的知識・能力に基づいた地域医療・看護の提供、看護職等へのコンサルテーションや教育、保健医療福祉チームへのコーディネート、看護実践の質向上へ貢献できる特定分野における高度看護専門職者である専門看護師の育成を主なねらいとしています。

高度実践看護学領域には、精神看護学分野とクリティカルケア看護学分野があります。精神看護学分野では、精神看護学に特化した理論・知識・技術を基盤に、うつ病など精神疾患で苦しむ精神障害者に、高度な知識と技術を伴う精神看護の実践提供ならびに看護の質向上に必要な「看護実践力」「教育力」を身につけた精神看護専門看護師の育成に必要な教育課程を配置しています。クリティカルケア看護学分野では、緊急度や重症度の高い患者に対して集中的な看護を提供し、患者本人とその家族の支援、医療スタッフ間の調整などを行い、最善の医療が提供されるよう支援する急性・重症患者看護専門看護師の育成に必要な教育課程を配置しています。

広がる可能性：指導的立場に立って活躍

- 1 大学院修了時は、全員が修士(看護学)を取得
- 2 専門看護師(CNS: Certified Nurse Specialist)のカリキュラムを「精神看護学」と「クリティカルケア看護学」にて配置。いずれも北陸地域で唯一
- 3 看護教育者として必要な知識・技術、教育実践力を身につける看護教育学領域を配置。北陸地域で唯一

「看護教育学領域」「地域生活支援看護学領域」の修了要件

| | | | | | |
|------|---|--|---|---|--------------------------------|
| 共通科目 | <ul style="list-style-type: none"> 看護研究概論②(必) 看護管理論② フィジカルアセスメント② | <ul style="list-style-type: none"> 看護研究方法論②(必) コンサルテーション論② 臨床薬理学② | <ul style="list-style-type: none"> 看護教育論② 看護・医療倫理② 病態生理学② | <ul style="list-style-type: none"> 看護理論② 医療情報学② 感染管理学② | 必修4単位+選択4単位 合計8単位以上 |
| | ↓ | | | | |
| 領域 | 看護教育学領域を専攻した場合 | | 地域生活支援看護学領域を専攻した場合 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 看護教育学特論A②(必) 看護教育学特論B②(必) 看護教育学特論C②(必) 看護教育学演習④(必) 看護技術教育論② 特論3科目6単位+ 演習1科目4単位必修 | | <ul style="list-style-type: none"> 地域看護診断学② 地域医療支援論② 地域ケアシステム論② 地域健康支援看護学特論② 生活支援看護学特論② 高齢者支援看護学特論② 創傷・スキンケア看護学特論② 精神保健支援看護学特論② 地域健康支援看護学演習④ 生活支援看護学演習④ 高齢者支援看護学演習④ 創傷・スキンケア看護学演習④ 精神保健支援看護学演習④ 3科目6単位以上 演習1科目4単位以上 | | 主とする領域の専門科目から10単位以上(演習科目を含むこと) |
| 専門科目 | 地域生活支援看護学領域13科目 高度実践看護学領域精神看護学分野(実習科目除く)8科目 高度実践看護学領域クリティカルケア看護学分野(実習科目除く)7科目 | | 看護教育学領域5科目 高度実践看護学領域精神看護学分野(実習科目除く)8科目 高度実践看護学領域クリティカルケア看護学分野(実習科目除く)7科目 | | 他の領域の専門科目から4単位以上(実習科目除く) |
| | 専門科目14単位以上 | | | | |
| 研究科目 | ↓ | | | | |
| | ・特別研究⑧(必) 必修8単位 | | | | |
| 修了要件 | ↓ | | | | |
| | 必修4単位+選択26単位 合計30単位以上 | | | | |

○の中の数値は、単位数を示す。
各科目の概要は、本学ホームページをご覧ください。

「高度実践看護学領域」の修了要件

| | | | |
|------|--|--|--|
| 共通科目 | <ul style="list-style-type: none"> 看護研究概論②(必) フィジカルアセスメント②(必) 臨床薬理学②(必) 病態生理学②(必) | <ul style="list-style-type: none"> 看護教育論② 看護理論② 看護管理論② コンサルテーション論② 看護・医療倫理② | 3科目6単位選択 |
| | 必修8単位+選択6単位 合計14単位以上 | | |
| 分野 | 精神看護学分野を専攻した場合 | | クリティカルケア看護学分野を専攻した場合 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 精神看護学特論A②(必) 精神看護学特論B②(必) リエゾン精神看護論②(選) うつ病看護論②(選) 精神看護学治療方法論A②(必) 精神看護学治療方法論B②(必) 精神看護学援助技術論A②(必) 精神看護学援助技術論B②(必) 精神看護学実習A④(必) 精神看護学実習B②(必) 精神看護学実習C②(必) 精神看護学実習D②(必) 1科目2単位 以上選択 | | <ul style="list-style-type: none"> クリティカルケア看護学特論A②(必) クリティカルケア看護学特論B②(必) クリティカルケア看護学特論C②(必) クリティカルケア看護学特論D②(必) クリティカルケア看護学演習A②(必) クリティカルケア看護学演習B②(必) クリティカルケア看護学演習C②(必) クリティカルケア看護学実習A③(必) クリティカルケア看護学実習B③(必) クリティカルケア看護学実習C④(必) |
| 専門科目 | 必修22単位+選択2単位 合計24単位以上 | | 必修24単位 合計24単位以上 |
| | ↓ | | |
| 研究科目 | ・課題研究②(必) | | |
| | 必修2単位 | | |
| 修了要件 | ↓ | | |
| | 必修32単位+選択8単位 合計40単位以上 | | 必修34単位+選択6単位 合計40単位以上 |

○の中の数値は、単位数を示す。
各科目の概要は、本学ホームページをご覧ください。

本研究科の特徴

1. 働きながら学べる環境を充実

平日9:00～17:50の授業時間割以外に、社会人学生向けに、夜間と土曜日も開講。

1 夜間や土曜日を利用した時間割
平日/18:00～21:10 土曜日/9:00～21:10

2 長期履修制度を利用し、2年間の学習内容を3年間で
ゆっくり学習(授業料は2年間分)

2. 臨床経験を活かした受験資格

1 出願時3年以上の臨床経験がある人は、大学卒業の有無にかかわらず
出願資格審査を受け、受験資格獲得

2 出願資格審査には、短期大学・専門学校等の卒業証明書、成績証明書、
業績調書を提出

出願資格認定申請期間

| | |
|-------|--------------------------|
| 第1次募集 | 平成29年 7月24日(月)～7月28日(金) |
| 第2次募集 | 平成29年12月 4日(月)～12月 8日(金) |

3. 学ぶ意欲を経済面から支援

1 入学金・授業料は、国公立とほぼ同額に設定

2 本学独自の奨学金制度を充実し、さらに経済面の負担軽減。
詳細は、お問い合わせください。

| 区分 | 初年度 | 次年度 |
|-------|----------|----------|
| 入学金 | 200,000円 | — |
| 授業料 | 400,000円 | 400,000円 |
| 教育充実費 | 100,000円 | 100,000円 |
| 合計 | 700,000円 | 500,000円 |

選抜方法

| | |
|------|--|
| 定員 | 6名 |
| 試験日 | 【第1次】平成29年8月26日(土) 【第2次】平成30年1月20日(土) |
| 試験会場 | 本学 |
| 試験科目 | 英語、専門科目、面接 |
| 検定料 | 30,000円 |

出願・試験等のスケジュール

| | 第1次募集(平成29年) | 第2次募集(平成30年) |
|------|-----------------|----------------|
| 出願期間 | 8/14(月)～8/18(金) | 1/4(木)～1/11(木) |
| 試験期日 | 8/26(土) | 1/20(土) |
| 合格発表 | 9/6(水) | 1/31(水) |

※出願を希望する方は、事前に受験資格、専攻分野について、看護学部事務課大学院看護学研究科担当までご相談ください。専攻分野の指導教員と面談していただきます。第2次募集は、第1次募集で定員を充足しなかった場合のみ実施します。

教育研究分野別教員名と教員毎の研究テーマ

| 領域・分野 | 指導教員 | 研究テーマ・研究指導内容 | | |
|---------------|-------------|---|---|---|
| 看護教育学分野 | 坂井 恵子 教授 | ①看護教員のストレス要因の測定や看護基礎教育の教育方法、教育システム ②看護技術に関する基礎的研究 ③看護教育者の能力に関する研究 | | |
| | 矢野 恵子 教授 | ①女性の妊孕性領域における保健指導・相談に関する研究 ②ライフサイクルと妊孕性の教育に関する研究 | | |
| 地域生活支援看護学領域 | 地域健康支援看護学 | 森河 裕子 教授 | ①地域健康支援に必要な地域の特性の把握・評価 ②健康阻害要因や健康増進要因を把握するための記述・観察疫学研究 ③地域の健康レベル向上のための効果的支援方法の介入研究 | |
| | | 生活支援看護学 | 小林 淳二 教授 | ①生活習慣病(脂質異常症、糖尿病)の成因、診断、治療、予後、予防ならびに、治療や予防における看護職としてのアプローチに関する研究 |
| | | | 前田 修子 教授 | ①地域で生活する療養者と家族、特に高齢者の健康や生活環境の維持増進を図るための、療養者と家族への援助方法開発(感染管理、膀胱留置カテーテル管理、医療・衛生材料供給システム) ②訪問看護師への教育プログラム開発 |
| | 高齢者支援看護学 | 村角 直子 准教授 | ①糖尿病看護の対象者における生活の質(QOL)および行動や意識の面など要因の分析に関する研究 ②糖尿病看護のケア方法の開発 | |
| | | 平松 知子 教授 | ①高齢者の理解と健康支援(当事者・家族の体験、転倒予防に対するセルフケアサポートプログラムの開発、等) ②老年看護実践能力育成(評価指標の開発、等)に関する研究 | |
| | 創傷・スキンケア看護学 | 小泉 由美 准教授 | ①高齢者とその家族を対象に高齢者の健康や生活機能の維持増進に関する研究 ②認知症予防の為に老年看護学の専門知識・技術の向上に関する研究 ③認知症緩和ケアや認知症高齢者の介護負担の軽減に関する効果的な介入プログラムの開発 | |
| | | 紺家千津子 教授 | ①医療施設から在宅等の様々な場における、褥瘡等やおむつ皮膚炎、ストーマケア等のスキンケア看護に関する様々な要因分析、アセスメント方法およびツールの作成、ケア方法の開発、介入評価 | |
| | | 松井 優子 准教授 | ①創傷をはじめとする皮膚障害のアセスメント技術や効果的なケア技術の開発 | |
| | 精神保健支援看護学 | 深沢 裕子 教授 | ①精神保健、精神医療における看護の課題に関する質的研究 | |
| | | 田中 浩二 講師 | ①精神に病いをもつ当事者と家族の生活世界に根ざした体験の解明、当事者と看護師の相互作用の中で展開する治療的ケアの考案に関する研究 ②臨床あるいは地域における精神看護技術の向上やケアプログラムの開発 | |
| 深沢 裕子 教授 | | 精神看護専門看護師としての知識・技術習得の集大成として、精神的諸問題および高度実践看護に関する研究指導を行う。 | | |
| クリティカルケア看護学分野 | 田中 浩二 講師 | 医療現場で生じる精神的諸問題を課題とし、看護実践能力を活用した研究指導を行う。 | | |
| | 小幡 光子 教授 | クリティカルケア看護領域における、周手術期看護、生体侵襲を受けた人の急性期看護や倫理的問題に関する実践的課題をテーマとした研究を指導する。 | | |
| | 紺家千津子 教授 | クリティカルケア看護領域における、周手術期看護、創傷、スキンケア看護に関する実践的課題をテーマとした研究指導を行う。 | | |